十役之抄 六
鎗長柄奉行

848
189
鉄
入

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用

持鎗奉行并長柄役長柄奉行

第一

一長柄鎗當時用於幸元の事

日本にて槍代用於始ハ上古神器の矛より変ー来れなれ〳〵ー天智天皇
長槍代用於事日本記に見なし又三代實録元慶二年に搶二百八十一竿錦搶
七十三竿鯨尾搶一百八十竿と時に檀ーの搶我製之と見ゆ今世の搶
の形ハ楠正成の所作と云ふ事記ホ之老住去合戦ハ楠正行の兵天野ノ願
とりよ法師武者柄の長一丈外の地坪馬の平首に川副ねしと有鑓の字ハ俗字ー
但用来ー久きなるやと別也形ハ矢の筈形太ク長くまっすぐ矢
利とも幸なりんとも中華にても似たる物有黄帝蚩尤と戦ふ所搶
みゆ孫子に有戦ハ諸註に有〕技を兵うちて長二丈四尺と日本の二間半
倭し短ハ一丈二尺日本の二間尺外し矛ハ長二丈日本の二間尺外し箇矛とそ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用

素鑓の如くに作に長一丈三尺ばかり鉄をもって
頭とし日本の八天狗と続挙始め諸葛亮若干槍作に長三丈五尺とし
日本の三間四天狗なる中華にも始めは易しとも甚制なきにあらず
弓箭に替く槍を以て士の重器とし是上古神器矛儒械表をへ
んハそ時機到来と云へし上代ハ弓箭を調度をの如く近世ハ槍を以て
通具と称を上代ハ多騎射ハ用ゐ近世ハ歩戦と倣る遠ハ鉄砲を以て
近きにハ槍をもって利とす甚戦功も一番槍等の働有或ハ備の警固
師匠又ハ陪の折」揃を乱代よ用意の者よ持槍の外に長柄と称し多携ん
事に成心是天文永禄年間より専ら行なわれ

附 長柄鎗用法得失の事

甲列より長柄負救長短の形不詳なれ共
又ハ五十本の内三十本ハ役長柄二十本ハ士大将自の長柄と書記要あれば

三百虎略に頭の下知を受ル士ハ一騎ニ一本ハたく歩ルと有至而小禄の士ハ
役柄免ス五十騎の備よ役長柄三十本と書に在ハ先ハ多くハ長柄
多を以ハ信長公の軍如是先仲間ハ双方に分ケ長短の槍をもって
揃き合事よ長き陣よ利を以と也
せもと云柄の長よ勢あれ共ハ信長公濃の齊藤道三と皆合遇の時
討取方の長柄ハ柄短く無勢と云謙信の富にハ長柄のこと専ら軍鑑勝頼
記よ飛弾の江馬常陸ハ謙信に降りて千張鐵砲千挺軍役しと甲列も
元亀二年出陣試よ当時ハ鉄砲肝要方よ長柄ハ暑ク墨量の足軽ハ
撰き鉄砲持ま忠元なるべくと軍鑑よも
甲列流よ長きハ不詳ともとも長き柄用ゐと見なし猶よ数ハ者そ少
なくを以と毒死の理先多くそも云ふ二十挺一備よ二十本ハ不可過三十本
そもそも不苦云其柄ハ丁寧仕度ス兼相なるハ折撓ク易し備の場そハ

848
189

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

848
189

扱身成ル丸ヨ鞘ハ何ヲ云モ不」講長柄槍即対シテ朱ノ印ヲシ云ヒ鞘ハ
扱身ノ後易収ノ柄ヲ云ヒ」治国ニハ外宮我専ヲ云ヒ」ハ大鳥毛等我
用ヲ信長公ハ朱柄ヲ用ヒ毛ハ勝ヲ欲ヲ云ヒ三間ハ
何ヲモ知ラシテ用法ヲ弁ヘ」所謂苦行槍ハ長三丈二尺ト云ヒ」
ヲ日ヲノ二間四尺ヲ対ヲシ善ヲヲ
加勢相交ヒ一家中総対ハ成ヲヘ」ク
役長柄御長柄持槍差別ノ事」

役長柄諸士ノ禄ノ高下ニ用ヲ出サヒ也信長公ノ時代ヨリ諸士ノ禄多ヲ
喜下ニ起ヒノ諸家役長柄数多ヲ乱ヒ也ヲ集ヲ奉ヲ
神祖天正年中御定書ニ持槍ハ軍役ノ外ヲ
ヒヲ沢持槍ハ馬ノ廻ヨ各一ヲトアリ甲列携ヲニ御長柄二百本ヲ
持一ツヲ長柄ノ品ヲ二ツヲ合ヲ諸士ヨリ所出ヲノ役長柄ト大将ノ数

長柄ト二段ヨヒヲ事」信長五百本持セヒヲ」ヲ御長柄ノ称」
神祖ヲモ御長柄二百本ヲヒト中興源記ニ見ヲヒ持槍トヒハ信玄モ馬ノ
廻リニ持ヒヒヲ守護ヲヒヲヒトシ」神祖ヨハ御持槍無ヒト中興源記ヨ
見ヲヒ是等ノ差別ヲ知ヒヘシ」

第二
一持槍奉行ノ事」

甚初甲列ヨ起ヒ元信玄持槍ヒ等ヒヒヲ
重ヒ成ヒモ甲列ノ餘風ヒ」神祖ヒモ初ハ無ヒ御槍ヒヒリ」台徳公将軍宣
下ノ時御上洛アヒヒヲ近藤石見守都筑弥左衛門奉行ヒヒ大坂陣ノ時ハ
神祖御槍ヒヲ大久保彦左衛門若林和泉守等台徳公ニハ小坂新助室賀
源七郎ヒ相續テ及ヒヲ」

持槍ハ大将ヒヲ守護ヒヒ事ヒヒ事ヒヲ数用法等雖ヒ国此
意得有ヒヒ相似タル事ヒ有事」

志書に持鎗二十二本内二十本ハ長身柄青貝鐔赤銅毛下ノ一尺寺計黒馬尾ふさ(房)を押巻しさけなき袋し二本ハ亀の甲の如く疵付鉄四ツ足も鉄鎌槍と見ゆ此冷ろ〳〵と咲と疵付し織田家の朱柄も同利と云ふ〳〵甲列持槍数を少なく云ふ又利の迫たる程なり寒到来にハ持槍を以の西儀分別軍の時剖敵を我旗本へ掛来ル勝負の戦ハ歩走の士太刀取の鎗脇にしく或ハ鉄砲或ハ持弓矢先へ立〳〵敵ハ実伏を乱し敵ハ実伏を乱し敵ハ実伏を乱し

持鎗備行営ニ於ル定法ノ事

行列ハ未書ノ図ヲ以テ考ヘシ扨旗ノ次ニ其次ヨリ武者ヲ行ル大将ノ座備ノ時モ大将ノ左右ヨリ前ニモ後ニモ立シ陣ニ於テモ本陣ノ柵ニ依テ或ハ持槍不飾時ハ本陣構ノ内ニ置ヘシ又ハ立ル所ヘシ定法ヲ出ス事ハ甲列ノ傳ヨリ因テ大将ノ守護ノ為ナレハ伺ノ上ナラテ行営共ヨリ遠ノハ不可離事ノ急成ル事ヲ以テ槍ノ内ニモ大身ヲ用ル意得アルヘシ

持槍ノ持者ノ事

甲列ノ人中間ノ内ヲ撰テ持セ給ヒトキ軍鑑ヨリ純ナノ羽織ヲ着セシムヘシ大将近衛ノ器ナレハ其勢ヒ尤ヨク如ク有ヘキ事ニ候ヘ共備ノ場ニテハ槍ヲ以指揮シテ徒士取之ヲ将ノ辺ノ威ヲ示スノ機ヲ知ヘシ陣屋ニハ槍ヲ以テ一所ニ小屋ヲ掛柵本場ヲ飾ルトキハ樂ノ堂ヲ以テ

者ヲ執シムヘシ

持鎗ヲ以テハ旗奉行ヨリ次ノ事ニ甚人柘ノ事

右甲列ノ列ヲ以テ當今又如ク大坂陣大融公ノ時御旗ヲ以テ移ス事信玄ノ持槍ヲ以テ今福市左衛門 牧野市左衛門 安齊平左衛門三人未書ノ図ニ有軍鑑備定ニハ三人同心十騎拾五騎ヲ以テ合テ四十騎有ト云ヘ是可疑武者ヲ以テ諸我人道二十騎ノ人数モ既ニ前備ノ由ヘ入ト記ス持槍ヲ以テ其備所無ニモ武者ヲ以ノ如ク同心ハ前備等加ヘシ但長柄二百本ノ内ヨリ動トアレハ在郷近習ノ内ヨリ動ト有ヘシ後ヨリ若信玄得大国ノ其制少違ヘハ槍ヲ以テ一騎ニ二本ヲ左ニシテ加ヘシ此ヲ知ヘシ扨新品盛集ニ於テ以テ隠六十騎ヲ以テ大将ノ守護ヲ云ハ御景憲ノ作意ヘシ大将ノ守護ヲ以テハ前ノ如ク歩士ヲ以テ持槍ヲ以テ取ヘシ働ヘシ以テハ槍ヲ以テノ同心守護ヲ以テ又

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

出頭足軽大将の三枝武兵曽根三人ハ常に甲府の館巻藁の間よ
勤番せしむ又末書に若得大国の時の試よ手足軽の率ゐるれハ持槍
の大身たるとも働よあよ四十挺の同心の士故設へらるゝ率薄微妙ゝ
射手異風の士をもく近衛と共ゝ利ハ常麦に渉る大将に近仕する直参
の士たる故よ其儘り遣しも等差ハ槍をゐの
同心として大将を守護をるゝハ当成へし然ハ右三人の同心十挺ハ前備の内へ
可記ス軍鑑の脱落なるべし澄ハ諸我ゝ人数をもく可知東都御槍をゐ
四人となるべくれハ持槍ト長柄ト合せく指揮をも見なし故にてハ
長柄ハ数多きなる同心の士をもく拉をむる率も有れ共件の外ハ不可
有ゐ傳来疎畧なるべし軍鑑未書新書共ゝ者迷ふ故よ武負
辨ス本満大坂陣の時浦上刑部齊藤市左衛門二人槍をゐたるも
持槍奉行ハ六本行の一職ゝもく云ふ勢当番非番の指別ハ米幣免許の率

当番にハ持槍ハ指揮して不紛乱大将ハ守護をるゝ大将の順見或ハ見定よ
出るとき時よ因て持槍ハ従へし非番ハ旗ハ行と同ゝ武着
奉行にかゝりて勤も職掌武者をゐに準ス故よ東書下巻に六本行各来幣御免と有
上方辺にく鎗大将の号又当時東都の御槍をゐの率甲列流と同異可論之事
上方にく槍大将と号をゐの別格の事し長柄をゐの指列なる故ゝ大将鉄砲大将
旗大将槍大将なるべし獨歩にく意成なる我領の人数をもく勝負となる
大将と号をゐハ甲列流し故よ持槍奉行或旗奉行ハ長柄をゐと号ス
今世皆叶なる成ゝ東都御槍をゐの始メハ慶長の末年より起れる前ハ長柄をゐ
のみなるゝ大坂陣の時御槍をゐ両人にく六本行の用なる御長柄をゐ若狭梅干仗
永田善左衛門安藤治右衛門小宮山又七郎筧助左衛門伊東右馬允
戸田七内等の姓名あるゝ後年御槍をゐ四人と成る共力同心拉副ゐるゝ
遠ハ御長柄をくも当役の支配となるゝ御旗をゐと不号武役に預ゝ親戚

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

一長柄奉行勤所之人数の事

役長柄の歩行相似ヲ遠ク事 大将の長柄と役長柄と別テ扱ハシム

甲列ヲ在郷近習の内より四隅勤ムベシ 先ヲ以の如きの武士并撰ムベシ

志書下巻にあり 新品武備軍要ヨ長久ヲ合戦の後の誠ニ 神祖御長柄

三百本ヲ限りとして大田十席 伊澤河内守 秀坂小刑部中根仁盛 蒲代吉重

伊御深雄 小栗忠高 河村吾七 天野傳蔵 村瀬共三 十人の姓名有又

中興源記小田原陣の試の所ニ丹羽六太夫 秀坂小刑部 永井右近 小宮山又七

保阪金左 内藤源助 多田三吉七人の姓名有右前後文名の内村瀬与三ハ

小田原の時旗奉行ヲ丹羽六支ハ長久ヨの後ハ武者奉行ヲ副ク諸ヨ以り

見積衆と号ヲ内ヨ入ル甲列ヨ総武者奉行の如一時ニ小宮山又七ハ小田原陣

のときヨ十七歳ヲ天正十年信列平均ノ時岩尾前山定ニ屋にて 秀吉の誉

ヲ号ヲ其兄内藤勝物の供セ玄関ヲ感セラレ又七ニ討職仰付ラレ保坂

内藤ヲ人ハ武田の一類ヲ号ヲ武田ハ譜代の家ヲ故ハ名ヲ吾徳寺の旅宿ニ本田

忠列内藤ニ帰参 言上一御槍ヲ折ラル内ニ入ル 定ル後ハ大阪陣の時ハ

ヨ号ヲ旗ヲ折ラル次ヲ慶長十年御槍ヲ折ラル毎人 千本槍の事ヲ外ニ八人の姓名有ヲ号別ニ天正年間の長柄ヲ折ラル内ハ長柄

取の如きの武士ヲ撰ムベシ 神祖御家ニ持槍ヲ折ラル事ヲ内ハ長柄

奉行ヨ武者奉行ニ就テ諸ヲ従来通ルヲ以テ一同ヲ被仕ヘ一同ヲ被仕ヘ士ヲ撰ムベシ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用

作法立く後ハ温怪ノ感りたれの甚時ハ甲列ニ在郷近方の内と撰く長柄もり
ともれの類ハ又雑波戦記ニ御備押長柄の次ニ大久保武蔵岩林和泉守
有ヒ時ハ長柄のかこ甲列の如く大将旗守護せ死御持槍と云無なこ御槍ニ
二挺も叶ハ押たるハ大融公御代ニ御槍ハ長柄もり西人又ハ両人と両ニ長柄もりの者
なきまれハ長柄ハても支配せ死ハ無ハ長柄もりの人数ハ主君の思召ニ
在ニ心ニも定矩なき事ハ

附
御長柄負数多ハ得失有他家にも類せ死ハ無ハ
信玄ハ二百本神祖ニ二百本持せ玉ひ新品よりあり信長ハ三百本持せ
死る事ハ右田和泉守の日記ニあり東都御長柄ハ千本槍と稱せ玉ひ
如何ニ長柄を数餘多ハ如何但大坂陣よりハ台徳公の御長柄三百本と令千
本槍とハ成ハ御上洛の時千本槍ハ二行ニ列スともいふ死ともせ行路の狭を
考へき事ニ候ハ信長三間の槍三百本を行列ニ立死ハ三間ニ一本ツヽ
千五百間なれハ二十五町より五十三行ありても十三町ニ如是無益有之器長く
積ハ其用ハ仍ち又二間半の槍二百本ハ七町半餘ニ二間ニ一本ニて一器間なれハ
六町半餘ニ是もハ多き事ニ但三行ありてハ四町たらす其矩ハ不可過
二百本ハ千本とハ不吟味の言とも云ハ御長柄ハ信長の長柄ハ
甲列の長柄朱四半の槍幟とあれ外ハ面見なり
長柄の柏ハ前ニ見たれ本藩大坂両陣共ニ柏ハなし中巻ニ三百挺持せ玉ひと云
ニ長柄持槍の用ハ第一ハ外ニ長柄もり有たれともハ 神祖中巻ニ持
せ玉ひとあれハ御持槍の用ハ中巻の事天正の比上方にハ大ニ器ニ玉ひ共近
世甲列流盛ニ成ハ中巻ハ廃ス

長柄ハ役長柄持槍等との指別の事

持鎗ハ大将旗守護ニ役長柄ハ諸士禄の高下ニ依ハ
なりとハ云ても大備旗本等ニ五百ハ小禄の士の出ス役ニ長柄即少なきハ備の輩ニ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

なし一周ヲ外ニ長柄ヲ立ク幣ヲ懸ノ列シ周ヲ其利ヲ別ツヲ外ヨ定ムヘシ（信玄
旗本ノ備ヲ考ルニ大近習六組ニシテ百ヲ十隊シ士一騎ヨ一本ツヽ出ス但長柄ナレ
トモ微禄ニハ許スノ定ナレハ立ヘキ人ナケレハ不可過但ハ大備ヲヽ柄数少キニヨリ
ヨリ御出ノ三百ヲ持セ一ヲ加ヘ故ヨ備ノ飾リト成用ハ但長柄モ同本ツヽ持槍ヨハ少
遠ヲ事ヲ以是ヲ思ヨ本藩大坂ノ御陣長柄ヲモ但ヲ本ヲ計モ有ヲヲ甲列ノ
諸士ヨ遠禄モ多ク大小将六組中小将六組ヲ小将六組都合十八組ノ士或ハ旗本一隊ノ端但
人ノ内モ所出ノ但ヲ柄多アルヨ依ク外ヨ御ヲ柄ノミ立ヲヲ一ヲ二人ヲレハ大将ノ御ヲ柄モ少ヲ有ヲヲ但但

八王寺の千人亢ハ長柄持ち二百人の士柄よ一本に二人亢四百人を小荒或ハ外役人よ百人合ア
三百人にして餘三百人ハ永陣又ハ永在京の時更代とな柄三百人ハ已たら事し
嚴有公の時千人同心の次四人を給事柄壁取ら只三百人計なして不足抱ハ合 常憲公
即位の始よ上聞よ達一千人同心ハ大消方或ハ日先の者人よ命せられ〳〵と云

第四 一役長柄を以勤る所其人柄の事

諸士所出ノ役長柄柄ハ日〳〵元締ノ又ハ支配人配り役を其配者不残柄よ集ら指揮をして
毎度出る事一當役の勤方にして士柄ハ其ア甲列役士柄ハ二隊ハ在郷近習
の内ら勤むとあら沖士柄ハ言下も三事し書下巻に又曰並の士柄ハ
然士柄擯ル事とあらそ柄ふへし

附 役士柄 行営備定法の事

行列其ア足性の次よ押拳大備小備共同し備其ア遣一飾不飾共よ同一陣屋ら出ル又ハ
遣一飾不飾共よ同一陣屋ら出ル又ハ
役長柄指揮等の事

一ら〳〵各討の指左ふへし諸士ら出ス者なれハ少の長短等異成へし故よ役人ハ兼ね
其異同ハ指よ示へし士柄よ短槍柄遣ハ士柄の註なし む幟柄一同にして其孰ル
ぬよ一国一統の士柄にして一統の幟柄有一組ごとの幟を有又自分の幟を有と思ふ者
もあらたハあるへらん役身の時一統の幟にてハ不分して各組ごの幟を以事也怪ぶ
役長柄持者并出立の事

必百姓人を挙成へし重出ス小荷具足先又ハ具足なく
ぬハ番刀等の用云ふへし一拾俵石持も以上ハ
扶持を取事も何ア分ハ皆役よ常ら出ス事なれハ
一組にして一統の見知あれら又ハ出ハ遣ふとも一同の幟あれき
来ル日甲列長柄荷并小身ア士柄荷具足抔著よあ
ぬもあれき。但本書に二十挺一備ら統士柄旗等人馬積り 畳十人馬六十三匹ヤ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

軍を為す者ハ皆具足し（中分軍勢し）外ニハ荷駄へ付る
軍に不向者の積りにて分ケたる此駄者ハ（ハ）假令柄も軍に向人数なれ（ハ）皆具足を用ゐ柄
持く後衆なを幸ハなれ（ハ）とも具足ハ着（ル）ハ心定り戦場にて悪ク堪（ル）とハ云ながら
て（ハ）雑（ル）調ニ為に一人ニ十人ニ一人ニ其定あるへし

奉行一騎ニ付ニ本柄數の事

甲州の書に千人に一騎とあり又半騎一備ニ本柄千本ニ付ニ二挺ニ
又新田義興到来に本柄槍を以ニ十本に一挺の仕法なれ（ハ）
考（ル）ハ三十本ニ付ニ一挺ニ（ハ）ても不苦 徳川ニ三百本の本柄ニ七八挺十挺の積りハ半分當者
半分非者ニ為ニ（ハ）ニ挺ニ一挺ニ（ハ）ニ挺ニ一挺ニ（ハ）ニ挺ニ一挺

山縣の備に心役長柄の外大將自己の長柄もあれハ旗本の如く御長柄の格に別ハ
長なハ御一ツを相交ゝ拵小若別ゝをも御長柄の若月ハ御一ツ人持拵旗の
指すて士大將の持長柄なゝゝゝき事ゝ
小備長柄弁ニ弁士の事
二三十挺持の大將の備にも必長柄十七本二十本ハ
有へゝ人寒到来四十挺三挺の積りの処ニ長柄三挺の積りの処ニ
乗使ゝ長者の内ゝ相代ゝ許ゝ拵ゝき事ゝ
如ゝき数許ゝむへゝ大備の一段なゝ
當今大番組の如き一隊の内長柄ゝ有ゝ
ゝ長ゝ事ゝ
未書ニ大近習一組奥近習一組足軽ニ組都合ゝ組
の武のゝ有ゝ實の備の姉ハ不見ゝゝ也ゝ備ゝ立ゝ及ゝ必長柄旗等の畧なき事ゝ

不敵右大番組も未書の意ゝ模ゝ新ゝなれハ假長柄を集ゝ奉行ゝゝれなゝ大番一組
二十挺ニ大ゝ一騎組頭四挺ゝ大ゝゝ与力ゝ副ゝ我ハ組ゝ四員の内ゝ一挺ゝゝ代ゝ柄を
指揮ゝゝ事ゝ可ゝ或ハ組の内ゝ撰ゝ長柄ゝゝ拵ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
むゝ可ゝ我ハ那ゝゝゝ知ゝゝ等の事ハあるへゝ人ニ長柄ゝゝゝゝ
三件ゝゝ時ニ依ゝ一挺ゝ藩馬ニ組も大坂の布陣ニ別隊なゝ右の法の如く
なゝへゝ先年中飛州ゝ山在番にも馬ニ一組ゝゝゝゝ交代ゝ長柄ゝゝ組ゝゝ
先ゝの備頭等ニハ持槍奉行有ゝ事の事
未書ニ曰旗本同率に必六奉行あゝへゝとゝ本藩大坂の時山崎周齊ゝゝ槍ゝ
ゝゝて小幡因獄ゝ我副ゝゝ甲州ニ山縣高坂馬場内藤ゝ如き賢武功の士我副ゝ
ゝゝ六ゝゝ小幡上総真田安房守等ゝ如き大備ゝハ必ゝ旗本ゝゝ副ゝゝゝゝ
第六
一長柄用法備行営城弁功指別の事
備ニ足軽の次ゝ立ゝ事ハ抗ゝの迫合畢ゝ長柄の持負我ゝゝハ人士の後ゝ立ゝハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

銃ヲ追合統ニ士ハ足軽ノ前ニ進出ッ其時長柄下リ過敗ス第二士ノ先ヲ備フ士ハ長柄モ
足軽ヲモ超テ進ミ出テ長柄ノ置所ヲ其時程吾成ル周フ足軽ト士トノ間ヲ備ヲ乱シ
備ヲ専ラ見ヤスク為ル又長柄持雑人ヲ易退ニ周テ士ノ前ニ立ノ利有行列ヲ
備ヲ伸タル者ニ長キ器ナレハ人ノ往来ニ不礙様ニ意得雑人ナレハ慢リヲ無ヲ半専
要ニ又陣取ハ諸軍ノ休ム所ニ但野陣ハ備モ同ニ陣座リテ飾リ不飾ノ得失ハ敵ノ
手ヲ奪ヒ或ハ形ヲ隠スノ用ヒ要又城中ニテハ敵狭間近ク付テ乗ニ乗ヲ形ハ打銃
不叶必槍ヲ以テ利ヲ取或ハ長柄ヲ以テ合テハ一間餘ノ堀等ハ渡ヲナヲノ費用有

附

長柄ヲ以テ馬入ル防ク仁用ル事

馬入ハ敵モ我モ平易ノ地ヲ陣ヲ取ナレハ不可(叶カ)敵ヲ馬武者多ク我ニ険阻ノ便ナ
キ所ハ長柄横ニ三人ヅヽ討ニ立ヲヲ馬入ヘリ込ル或ハ馬ヲ宮ニ打足軽ヲ
立ル事モ有ヘシ是ハ足軽大将ト云識ヲヽシ
時ノ要害所ノ虎口ノ事

車ノ如ク立ル時ハ長柄ヲ以テ虎落(モガリ)ノ如ク菱垣ニ結ヒ内ニハ打銃ヲ伏置ヘシ
モ所ハ長柄持ノ腰ヲ指ニ敵ヲ本陣地ニテ立長柄ヲ
引假ヲ堀切ヲナヲ等ノ事アル敵ヲ急切ノ時ハ其ヲ不及長柄ヲ以テ要害ヲ
設ル又長柄ヲ以テ喰違ヘヲ二ヲ石ヲ以テ味方ノ出入ヲナヲ初メヲ分ヘカク敵ヲ
引入ル内ヘ引入追来ル敵ヲ要害ノ内ヲ失(うしな)ヲ敵ヲ打ヲ取ヲ時ノ
虎口ヲ広ク小追合ノ武功ニテヲ先ヲ初ンヲナヲハ長柄ヲ以テ時ノ要害ヲ設ケヲモ
ヲ広ク敵ヲ防キ留ヲヨハ味方ハ内ヘ入ヲ失ヲヲ射ヲ切リヲ味
所ヲハ長柄ヲヨノ物ヲモ不落ヲハ防ヲキ事其出入ノ利ヲ取ヲ柳島雲ノ陣法ニ
モ叶ヲ似ヲヲ足軽大将ト云一ヲ合ル

合戦初メ或ハ備利ノ後長柄武功ノ事

寒到来ヲ曰長柄ヲ以テ心持ハ是モ必自身ノ働キ無ヲ
軍ノ時鉄砲追合始リ敵間近ヲヲ既ヲ足軽ハ鉄砲ヲ以テ備押ニモ行儀正ノ不知生ヘ
足軽ハ鉄砲ノ照ヲ詰玉薬ヲ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

程よき所迄近付ハ必馬乗士衆心掛次第槍又ハ刀或ハ弓鉄砲各得道具以破ル足軽の後へ指詰ル者ハ其時ハ長柄と士衆入交ル様ニ備ル事肝心也士衆ハ長柄ニ近く居ル事不可ニ入交ニ而ハ不可ニ争ニ有心時ハ左右へ掛ケ切崩ス時ハ長柄ハ少く敵の指物と士衆落ス如く掛ケ廻シ敵も散乱して崩ル事必定と有是槍場の時ハ長柄の先を頭ヲ剔敵も散乱して崩ル事必定と有是槍場の時ハ長柄の先を頭ヲ士の後ろの進ム迄ハ其勢敵ヲ見ヘ下ル掛心如く思ふ周ヲ味方勝利ニ疑ニ又曰長柄ハ敵雖敗軍ト雖一町と不可追頓テ長柄ハ纔ニ近く総旗殊ニ馬幟ヲ付備ル可ニ立直ト有モハ敵敗セハ一町計ハ長柄ヲ少く進掛ケ〳〵必旗ニ而ニ軽リ止ルもの事ニ也教ル第ニ分別一階ニ而ニ是ヲ試ル事肝要也

若仕損なハ瞎病の名取なれ〳〵と寒到来ニ也

列の時乱ル事ハ長柄ニ而ニ事ニ寄ニ或ハ切ニ崩ス事ニ有

其列ニ而ニ〳〵ニ而ニ敵ニ近付ル時ハ長柄ハ心ニ任セ下ル計ニ而ニ持着の体息ヲ休ル如き

抔ニ云慶長之年ニ本藩ニ浅井畷ニ而ニ長久手ニ行列ニ而ニ小松ヶ原ニ而ニ松村孫ニ下ニ本田働ニ成なり

なれも長柄の行列不正所ニ而ニ来ル時ハ乱ニ成ル事ニ又ハ敵ニ卒ニ敗北の勢ニ而ニ長柄ハ切ニ続ニ而ニ

持ニ而ニ柴田勝家柳ケ瀬の大敗ニ而ニ三四十人ニ而ニ小座ニ退ク時ニ長柄ハ九人ニ切ニ成ル

ニ而ニ行列ニ連ニ而ニ長柄ハ振ニ而ニ持ル程ニ而ニ敵ニ近付ル事ニ而ニ無ニ之ニ

隆景ニ而ニ行列ニ寒ル事ニ或ハ却ニ而ニ排路なとニ而ニ先ニ人数崩ル時ハ友押ニ崩ル事の

なれハ長柄ハ四五本ニ而ニ陸ニ成ル様ニ陸ニ而ニ我行列不崩ニ而ニ事の

要ハ用捨あれ〳〵一方ニ而ニ戦ニ成ル様ニ一ニ事の山賊ニ備ル事肝要也

友押ニ而ニ崩ル事ニ而ニ事の抔ニ備ル事右の方ニ山賊ニ而ニ搆ル事ニ而ニ

周ヲ山縣ニ又守及ニ云廣野ニ而ニも猶如ニ

陣取ニ而ニ長柄飾ニ而ニ仕置ニ而ニ事木の事

侯長柄ニ而ニ人の小屋ニ入長柄ハ三本ニ而ニ小屋ニ仕ル事ニ而ニ長柄持の小屋ニ掛ケ所ニ而ニ直ニ〳〵

若飾ニ而ニ二百本の長柄柵木の場ニ成ニ而ニ一列ニ而ニ不可飾ル従事ニ而ニ不陸ニ而ニ事の

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

長柄持ハ少ニ尺ニすのゑ本柄腰ヨ指ヘ一或ハ步立ち長柄ヲ以テ或ハ山坂ヲ上下シ或ハ敵ノ馬ヲ防ク

守城の時守(專)鎗ヲ用ル事一

大身の鎗の柄短きハ利有故ヨ城ヲ守ノ鎗ハ身ヲ卑(ヒク)シ柄短ク若(モシ)ハ本藩ニシテ大石持城攻のとき山口玄蕃大身の鎗ヲ多數(タスウ)直(ジキ)ニ城ヲ目ヲ突(ツカ)レ一ニ多ク死手負(テオイ)あるとハ此事ハ不限事ナカラ預メ知(シル)ヘキ事ヽ

第七

一治世持鎗奉行意得の事一

當今多ハ年老の士ヲ(ヲ)ク(ク)命セラレ事ト成(ナル)ヲ(ヲ)ク(ク)業(ワザ)ヲ(ヲ)ク(ク)なり一當時舊功の士ヲ撰(エラ)ヲ(ヲ)ク(ク)ヲ職(ショク)ト一ニ兼(カネ)シム(シム)ル近年ハ本藩ヲ初(ハジメ)加藤室(ムロ)鍋島(ナベシマ)ニ盜賊改(トウゾクアラタメ)ヲ置(オク)リ其當(ソノアタリ)ヲ得(エ)トモ一若(モシ)ハ定(サダメ)ナドノ定役(サダメヤク)タルヽハ文役(ブンヤク)ニシテ相應(ソウオウ)トハ(ハ)ヽ(ヽ)ク(ク)ヲ(ヲ)ク(ク)ヲ(ヲ)ク(ク)ヲ(ヲ

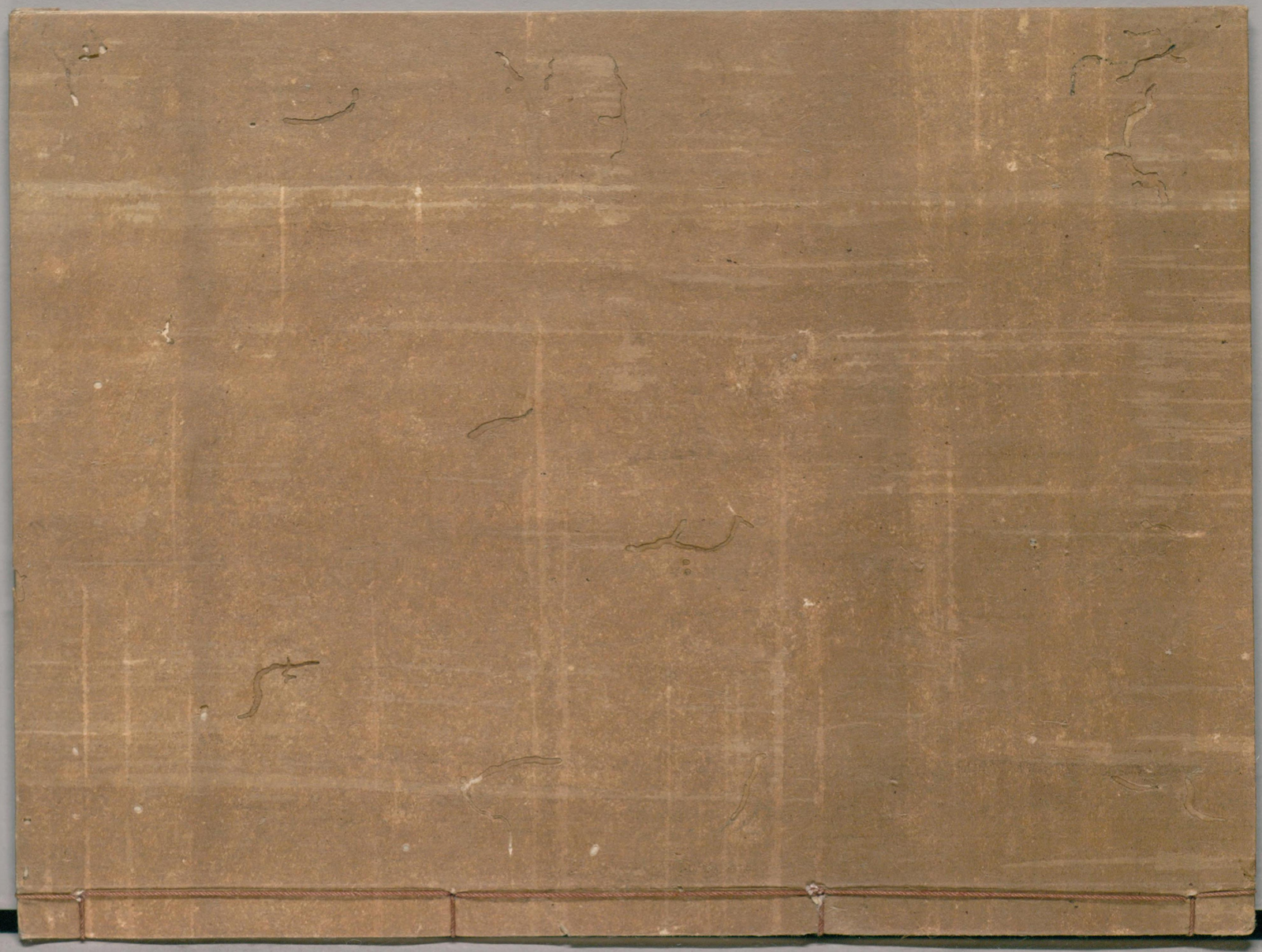
848
189

皆前に述たるごとく本朝より忠死士八或八捨を行ふに移り皆を功積と
身体をつくし志代顕をまた本名代不可失

右鎗奉行長柄奉行ノ意得甲列ノ書傳ヲ本トシ近世ノ支躰ノ考所述
如是品類八章附節九九箇條合テ三十七ノ挙目ヲナス干時享保二年
丁酉初夏十二日

有澤武貞

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189